

目指す学校像	「活気のある学校」 ○何事も本気で取り組む生徒 ○生徒の良さを見つけ育てる教師 ○生徒・職員・保護者と一体となった地域
重点目標	1 「学びのポイント」「個別最適な学び」の視点を踏まえた授業の工夫改善 2 安心・安全な学校生活を目指し、自己肯定感を高める生徒指導・教育相談の充実 3 コミュニティ・スクールのさらなる連携と協働の充実 4 教職員一人ひとりが力を発揮し、居心地の良い学校をつくる教職員研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○すべての授業において、落ち着いて課題に取り組む姿勢が見られる。	・学びの自律化、探究化に向けた情報端末の活用と授業改善	①「学びのポイント」を活用した授業公開を各教科で年間1回以上取り組み、生徒が主体的に学べる「探究的な学び」を実践する。 ②「学びのポイント」「個別最適な学び」の視点を踏まえた授業の工夫改善をする。	①学校評価「授業」の項目で生徒・保護者の肯定的評価の維持 (R5:89%→R6:95%) ②学校評価「生徒に課題意識をもたせた分かりやすい授業を行う」の項目で教職員の肯定的評価の維持 (R5:93%→R6:95%)				
	<課題> ○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒は多いが、やや学力の二極化が見られる。 ○意欲的に学習する生徒は多いが、主体的に物事を考え、活動につながらない生徒も少なくはない。	・発表などにおいて、自分の言葉で表現する力の育成	①教科を横断して読解力を高め、筋道をたてて考えさせる授業の工夫・改善を行う。	①全国学習状況調査質問「自分の考えを分かりやすく伝える、文章にする」の項目で生徒の肯定的評価の維持 (R5:89%→R6:92%)				
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回った。 ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見受けられる。	・生徒一人ひとりへのきめ細かな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実	①情報端末を活用した生徒のアンケートや校務支援システムの活用を蓄積し、生徒の状況を継続的に把握する。情報を共有し、教職員が一人で抱え込むことのないように組織で指導支援を行う。 ②教職員が生徒とかかわりをもつ時間を増やす工夫をする。	①学校評価「教育相談」の項目で生徒・保護者の肯定的評価の維持 (R5:80%→R6:90%) ②全国学習状況調査質問「よいところを認めてくれているか」の項目で肯定的評価の維持 (R5:95%→R6:100%)				
	<課題> ○教職員と生徒一人ひとりとの信頼関係の構築が大切であり、生徒とかかわりをもつ機会を多く創る必要がある。 ○災害時や危機対応時の教職員の連絡体制や緊急時の動き方の研修会を行い、徹底した訓練を生徒への指導に活かす必要がある。	・教職員の危機意識と生徒自身の自助共助、安全な学校生活の実現	①緊急対応時の研修を計画的に実施し、振り返りを蓄積し、日常の生活につなげていく。 ②生徒自ら危険を察知する力や地域に貢献する力など生徒の主体的な活動となるよう働きかける。	①学校評価「避難訓練」の項目で生徒の肯定的評価の維持 (R5:98%→R6:100%) ②休日に行われる地域の防災訓練等への生徒の参加数を増加 (R5:4人→R6:10人)				
3	<現状> ○学校運営協議会、社会福祉協議会、東中よくし隊、自治会、PTA等、地域や保護者は東中に強い愛着を示し、協力と支援体制が確立されている。	・地域との連携・協働によるさらなる生徒の自己肯定感を醸成する教育活動の展開	①地域等の支援から連携・協働へとさらなる進化、深化を図り、共通理解、共通行動を行う。 ②学校HPの情報を適宜更新し、家庭・地域が学校の取組について情報を共有する。	①学校評価「教育情報の開示」の項目で保護者の肯定的評価の維持 (R5:89%→R6:95%)				
	<課題> ○学校運営協議会で、目指す生徒像や身に付けさせたい力などを熟議し、その実現のために家庭・地域の方々と活動を充実させる必要がある。 ○地域とのかかわりやボランティア活動に生徒が主体的に参加をすることを増やし、ふるさとであるこの地をさらに大切にすることを培う必要がある。	・生徒が主体的な活動となる教育活動の展開	①他人を思いやる心や郷土愛等を醸成するために生徒自らの考えで行動できる機会を意図的、計画的に創る。 ②上記の①の様々な体験を通して、生徒からそれ以上に広がるような活動へとつなげる。	①学校評価「地域とのかかわり」の項目で生徒・保護者の肯定的評価の上昇 (R5:54%→R6:75%)				
4	<現状> ○ICT機器の有効な活用方法について、エバンジェリストやICTサポーターを中心に研修を重ねている。 ○教職員一人ひとりが、自分に適した研修を進めている。	・当事者としての自覚をもった教育活動の実践	①エバンジェリスト、学校課題研修主任を中心に、ICTを活用しながら組織的に研修会を行い、教職員の資質・能力を向上させる。 ②「キャリアnavi」と研修受講履歴を活用し、面談等で個々の強みを活かした研修となるよう助言する。	①学校評価「課題研究・校内研修」の項目で教職員の満足した評価の上昇 (R5:26%→R6:50%) ②教職員の研修について、キャリア振り返りシートを活用し、自己評価の第2回目の振り返り評価の上昇 (R5:3.0ポイント→R6:3.4ポイント)				